

平成20年度「新たな公」によるコミュニティ創生支援モデル事業

モデル事業名	ブラジル人学校への歌による日本語指導と誰でもわかる日本語ポルトガル語の教材製作と普及
対象地域	群馬県大泉町・太田市
活動概要	<p>群馬県大泉町は人口の16%を外国人が占めており、外国人集合地域全国一の町である。また隣接する太田市は、外国人が9,000人近く居住し、その半分以上をブラジル人が占めている。この大泉町・太田市を中心にした圏内には、2万人近くのブラジル人が居住している。隣接する太田市とともに、地域の公立学校に日本語学級を開設し、義務教育学齢期に当たるブラジル人の子どもたちの受け入れ体制がいち早く整えられてはいるが、やはり言葉の壁により、公立学校に適應できない子どもたちが多いのも事実である。親の就労のための渡航に伴い、いきなり学習が日本語となると、ブラジル人の子どもたちの立場になれば、日本語習得の苦労は相当大変な事と推察される。公立学校の教師たちの熱心な指導と支援により、そうした状況に耐え、克服し、日本語の習得と日本の学校システムに適應できた子どもたちも確かに存在する。しかし、日本の学校からドロップアウトしていく子どもたちの数が多いのも現状である。このドロップアウトした不運な子どもたちが、不登校となり、日本語も母語も十分身につかないまま、日本社会で非行化への道をたどる危険性はかなり高いと言えよう。また、日本のぬるま湯のような環境に慣れてしまった来日した家族は、母国に帰ることも出来ず、戻りたいという夢を抱えながらこの日本で生活するほかはないのである。そのために、進学や就労、さまざまな点で言葉の壁が問題となってくる。幼児期や小学生低学年から、自然に日本語を身につけ、子どもから親へという逆のルートで、言葉の問題を解消し、この日本でお互いが深く理解できる環境づくりを実現したい。</p>
今年度の主な取組	<p>在する。また、学習を補助するために、公立学校に設置された日本語学級も存在している。しかし、大泉町・太田市には、ブラジル人学校が6校存在するが、日本語を習得する事を目的とした授業は、ほとんど行われていないのが、現状である。また、公立や私立の保育園にブラジル人の子どもが入園してくると、保育士達は、言葉が通じず、どのように指導し、対応したらよいのか困惑している。幼児期に日本語を体得すると、日本の学校にもスムーズに移行でき、また、家庭で子どもが口ずさむことによって、両親も日本語をいつの間にか覚えていく。そのことにより、地域住民とのさまざまな問題の解消につながると考える。</p> <p>①ブラジル人学校で歌による日本語を指導する。 自然に、そしてすぐにその場で話せ、理解するために、歌で言葉を覚えるという方法を取り入れる。日本の童謡・唱歌により、色彩・言葉・感情などイメージのつかみやすいものが入っている歌・リズム感があり身体で覚えらる歌から導入していき、思わず口ずさむようになるように、楽しく覚えてもらう。(実験的な段階ではあるが、幼児で30分間に2曲覚えることが可能)。歌の内容から日本人の持つ情緒・風習その他の理解も促しながら指導する。また、ブラジルの童謡を翻訳し、日本語に置き換える事により、より日本語の理解を深めるよう配慮する。</p> <p>②日本語・ポルトガル語の記載された、わかる教材を製作する。 ①で行う指導と並行し、誰でも使用可能な教材を作成する。1曲の中に、言葉の意味や、日常的な事柄等を盛り込む。学校だけでなく、公共機関・病院・保育施設・商店・その他に配布する。</p> <p>③普及のための指導者育成 実際、この教材を使用して、保育・教育する人が誰でも利用できるよう、指導者を育成する。</p>

活動結果	<p>今回の事業を進めていく中で、日本人・ブラジル人問わず、言葉がわかり交流を求めているということを実感した。お互いのコミュニケーションがはかれたときの喜びは、言葉に言い尽くせないものがある。ひとつの言葉でも通じれば、それが糸口となって次から次へと発展していく。そして1回でも言葉を交わしていれば、隣でひもじい思いをしている人々を、見過ごすということは、なくなるであろう。どこでも英語は通じる。また、話せなくても、どこかで耳にしたり、日常の言葉の中に溶け込んでいる。でも、ポルトガル語は、まったく別物だった。私たちに馴染みのある単語は、ごくわずかである。そして、文法や発音など、ものすごく難しい。日本語という言語も、漢字やひらがな、そして言い回しなど、これもまた難しい。この二つの言語を、結びつけるのは、やはり「歌」の力だと思う。「歌」を通しての両言語の理解の速さは信じられないくらいである。今年度は、日本語の歌の授業と、教材のための調査及び製作を行った。進めていけばいくほど、ここ大泉町・太田市だけでなく、同じ問題を抱えている全国の各都市で、本事業が必要とされていることがわかった。</p>
当初予想していなかった効果	<p>ブラジル人学校の授業において、子どもたちを対象に行っていたが、授業と一緒に見ていたブラジル人の教師たちも日本語を覚え、次第に子どもたちに指導するようになってきた。日本語に対する関心の深さ、意識の高さを感じた。</p> <p>教材については地域内での活用を想定していたが、11月29日～30日に行われた「101年目への第1歩」のワークショップにおいて、この企画を発表した段階で、滋賀県をはじめ各地の国際交流機関の方々から、大きな反響をいただいた。このことより、この地域だけでなく、同じ問題を抱えている多くの地域で、教材を必要としていることを知る機会となった。</p>
実施状況(写真)	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>○試作教材普及の様子</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>○成果発表会の様子</p> </div> </div>
応募団体名	特定非営利活動法人大泉国際教育技術普及センター／meeting point doux+ Kids Mix
リンク	
部局／担当者名	理事長 高野 祥子
連絡先	0276-62-0814
推薦市町村名	群馬県太田市 大泉町